

★2009 年新春特別インタビュー★ 俳優の長門裕之さんにお話をうかがいました



洋子さんの介護は自分に充足感を与えてくれると語る長門さん

映画・舞台・テレビ等で活躍されているベテラン俳優長門裕之さん。昨年11月テレビの報道番組で奥様の南田洋子さんの介護を続ける長門さん、そしてお二人の実生活が紹介され大きな反響を呼びました。私たちバナナ園グループがインタビューをお願いしたところ長門さんは快く引き受けていただき、ご自宅にてお話を伺いました。

矢野：今回は私どものインタビューを引き受けていただき有難うございます。ところで、その後南田洋子さんのご様子はいかがですか？

長門：テレビで紹介されたとおりですが、現在は私と、元介護職員だったお手伝いさんを雇い、介護にあたっています。洋子は徐々に記憶障害が進む中「食べたい・眠りたい・痛い・痒い・おしっこがしたい」等本質的な部分に集中をしているような気がします。洋子が「現在と過去を比較し、それを嘆く」時期は私も本当に辛かったのですが、これは過ぎようとしており、逆に介護に集中できるようになりました。先日も食事時に洋子が干物を手で持って食べようとし、思わず「いかん!」とノド元まででかかりましたが、とっさに干物を手に取り「こうして食べると旨いな」と。洋子の目線や行動に合わせた介護を心がけるようにしています。ただ、洋子は外出を嫌うところがあり、運動不足になり勝ちでないかが気になります、これは女優時代から、外出するとどうしても周りの目が気になる、そういう女優としての価値観や尊厳から来るものと思います。しかし古い洋画のビデオを見ていると、私の思い出せない役者の名前を言い当てたりすることもあるんです。それに例のドキュメンタリーの最後、私がマンションの部屋を出て行った後、勿論、私は知らなかったのですが、洋子がドアの前で「随分涼しくなったわね」とつぶやいた時の表情、まさにエンディングにふさわしいもの、まだまだ女優の熱い血が通っていると感じました。また、我が家で私は洋子の「たたき台」と呼ばれているのですが、洋子が喜怒哀楽を私を「たたいたり」「つねったり」して表現するのですが、しかし、その時も力はセーブしてくれる、こんな時本当に洋子を愛おしく感じるのです。私たちは「ワドリ夫婦」と呼ばれていましたが、互いに俳優・女優として切磋琢磨してきた関係でもあります、しかし今、介護をしていて洋子が私を「頼りにしてくれる」「信じてくれる」「待っていてくれる」事を感じ、かつて無いほどの充足感と幸福な時間を過ごし、男としての責任感と誇りを感じています。

矢野：南田洋子さんも長門さんのお父様（俳優の沢村国太郎さん）の介護をされていました。

長門：脳軟化症の父を介護していました、亡くなる前の3年間はほぼ付きっきりで、父は俳優、人間として大変プライドの高い人でしたから、プロの介護人でも「赤ちゃん言葉」を使ったり、そんな方は即「お!」にしたこともありました。そんな父のプライドや尊厳を大切にしながらの介護で、最後は洋子の言うことしか聞かなくなりましたし、お陰で「ウツ」にはなりませんでしたが、洋子の献身的な介護から私も多くのことを学びました。

矢野：ところでドキュメンタリー番組の反応はいかがでしたか、私たちは勿論、介護に携わる人たちに大きな勇気と感動を与えて下さいました。

長門：テレビの視聴率、その影響でインターネットの検索ランキングで「長門裕之」がトップになったり、また多くの方々から励ましのお手紙やメールを頂き、世間の「老々介護」「認知症」に対する関心を肌身で感じています。日本では2050年に認知症の方が500万人になると言われていますが、その「研究」や「理解」に関し、他の医療分野に比較し、決して進んでいるとは思いません。

矢野：5年程前にアメリカの「介護」の状況を視察しましたが、故レーガン大統領がアルツハイマー病を公表したこともあり、認知症に対する理解や環境の整備は日本とは隔世の感があると感じました。

長門：そうですね、介護保険制度が導入されましたが、私もこの1月に「後期高齢者」の仲間入りをします、日本が高齢者にとって決して優しい国であるとは思いません。特に認知症に関しては「治療」とともに「予防」にも力を入れなくては行けない、幸い私は「伝達力」は持っていると思います。これらの問題について、これからも積極的に社会にアピールしていきたいと思っています。これまで、私がメディアに取り上げられるのはどちらかと言うと「スキャンダル」が多かった(笑)、このドキュメンタリーで完全に「風」が変わったと感じています。キャッチフレーズが「ワドリ夫婦」から「老々介護」へ。仕事や行動を通して「介護」や「認知症」への理解を啓蒙していくこと、これはまさに天が私に与えてくれた「仕事」と考えていますし、このことは洋子も必ず賛成してくれるはずです。<敬称略/以下次号に続く>



長門さんとインタビュー-矢野達郎<小社理事>



BN
1月号応募権

新春読者プレゼント! 長門裕之さんの直筆サイン入り<1名様>

「夢のまにまに」映画パンフレット

木村威夫監督作品 主演：長門裕之 出演：有馬稲子/井上芳雄/永瀬正敏/宮沢りえ 他

抽選で1名さまに長門裕之さん主演「夢のまにまに」映画パンフレットをプレゼント! 上の応募券をはがきに貼り住所・氏名・年齢・お電話番号明記の上下記までお送り下さい。211-0001 川崎市中原区上丸子八幡町 816 あい、介護ネットワークズ

Dr.鈴木の 訪問診療日記⑤ ～冬期に気をつけたい感染症②～

このお正月に「感染列島」という映画が公開される予定で、全国東宝系にて1月17日公開。＜“新型コロナウイルス”が日本に発生したという想定で話が進められ、Pandemic（病気が）全地域に流行するの意味＞の恐ろしさを描いているそうですが、皆さんご存知でしょうか？

今まで幾度も、免疫力のない毒性の強い感染症を人類は経験してきました。医学がいくら進歩したとはいえ、いっそうグローバルになった現在は、AIDSといった元々限定された地域での風土病とされていたものや、SARSといった新興感染症が全世界規模で多く見られるようになってきたことはまぎれもない事実です。私もこのところ外来診療をしていて、これまでに比べ意外なほどインフルエンザの予防接種を受ける方が多くなっており、それも今まで接種を受けたことのない方が多いことに気づかされますが、報道マスコミの影響も大いにあるのでしょうか？

『インフルエンザはかぜじゃない』と世間ではよく言われますが、鼻汁、咽頭痛、発熱等、風邪と同様の症状がみられますので、一見すると「風邪かな?」と思われそうですが、風邪の別名は“急性上気道炎”とか“急性咽頭炎”とか“急性気管支炎”とかの診断に至るわけで、割合“局所”症状が多いのに対し、インフルエンザは39℃以上の高熱や多くの関節に及ぶ関節痛など全身症状が強いのが特徴です。最近では医療機関に行けば迅速に検査を受けることができ、ものの15分程度で感染しているかどうか判定ができるようになっています。鼻腔や咽頭の粘膜の細胞を擦り取るだけで検査はすみますが、発症直後は陰性になることも多いようですので、いつ発症を自覚したかをよく確認し、伝えることは、インフルエンザの検査、診断、治療には非常に大切なポイントになります。インフルエンザウイルスは、冬場に流行りますが、ウイルスが空気感染すること、空気が乾燥して、かつ粘膜の抵抗力を弱めることが原因の一端です。冬場の室内環境は最近、気密性が高く、エアコンや暖房器具を使用による乾燥から、ウイルスにとっては絶好の環境下にあるといえます。こまめな換気や、加湿器等を使って、まず室内の湿度を50%以上にすることが効果的なポイントになってきます。環境と同様に体調管理も非常に大切で、予防接種を受ける、うがいや手洗いといった基本的なことを励行することにより、感染のリスクを回避することが出来ます。特に老人ホームやグループホームなどのような高齢の方が多い施設においては、非常に感染が広がりやすいですし、かかった場合に重度化しやすいですから、ウイルスを持ち込まないよう、勤務されている方は勿論、ご入所されている方のご家族やご関係の方は、特に体調を勘案して訪問するとよいと思います。



鈴木先生は当社の運営するグループホーム「川崎大師バナナ園」で訪問診療を担当、入居者の健康を管理する頼もしい司令塔。お問い合わせは「ひろクリニック」03-5753-5695。川崎大師バナナ園→



バナナ園グループ

- グループホーム「川崎大師バナナ園」☎ 044-280-2386
- グループホーム「バナナ園」☎ 044-588-0645
- グループホーム「第二バナナ園」☎ 044-587-1773
- 高齢者ケア付住宅「IDS バナナ園」☎ 044-580-3210
- グループホーム「バナナ園ほりうち家」☎ 044-722-5361
- グループホーム「のんびりーす」☎ 044-797-3314
- グループホーム「バナナ園生田ヒルズ」☎ 044-911-1599
- デイサービスバナナ園☎ 044-588-0890
- あいケアサービス☎ 044-433-4651
- すこやかケアプランセンター☎ 044-411-3120

古屋管理者みよしのレポート 出会い「みよしの」における居宅介護

1. 「出会い」居宅介護

今までにないいくつかの機能の組合せ（実践現場）

<目標>

一、自由・自己決定の支援と尊厳の支援

一、高齢者と向き合うケアとのかかわり、支援

イ) 「今」の困難-ケア担当者の会議-プランの作成-自己実現

みよしの さくら荘での暮らし

- 若年認知症の居宅
- 軽度認知症の居宅
- 高齢者で障害者の居宅

小額経費での高齢者の居宅等 方々の暮らし支援

意思の確認

地域との暮らし・調整（経済的生活側面と健康、医療等）

ロ) 入居に関しアセスメント

「出会い」から始まるアセスメント

1. 本人との出会い「看られる対象」から「見る協働者」へ

1. 「ADL」と経済性、立地地域との調整（認定の種類とケアプラン）

1. アセスメントは過程において実施 — 必要に応じて機能

2. 地域密着のケアの過程

高齢者の日常生活の中で変化、援助過程

イ) その人らしさを理解する

ロ) 気付のために小規模であることが望ましい（地域社会での生活の継続の為である）

ハ) 支援するチーム（訪問介護）共有することは欠かせない

ニ) 身体中心 — 身体労働から「若年と高齢認知症ケア」は精神、感情ケアの労働である

ホ) 生活状況からサービスは一体的に提供 — 環境

ヘ) 「変化性の気付」モニタリング

「即時 柔軟な支援」プランの変更（ケアマネジャーと会議）

3. 症状の進行と生活機能の支援

一、変化性観察

1. うつ、不安定状態

1. 認知症妄想の気付

1. 言動の変化 高次 ADL 障害

1. 睡眠障害

1. 平均的日常生活の中 ADL の目立の気付

二、ケアサービスの持つ力を生かす

地域生活支援、近隣住民とのコミュニケーション

音楽、お茶のみ、犬の散歩…愛犬とのかかわり — 感情、やさしさ、いたわりの養い

地域との協働ネットワーク必要 — 負担の分散

サービス提供者側の優先から本人意思向をきめ細かく応じる

管理者、スタッフを家族におきかえ地域の利便性を出す

サービスパッケージから「必要なこと、時間、人」の発見

ニーズ（必要）に変えられる管理者、ケアマネジャーとの信頼を深める

NPO 法人 福祉振興会
川崎区八丁畷 さくら荘
デイブレイク みよしの
管理者 古屋 喜久子

グループホーム空室情報

空室情報、入居に関するお問い合わせ
は各施設もしくは総合案内

☎044-433-4651

までご連絡下さい



月刊 MONTHLY BANANA NEWS（毎月1日発行）
通算第49号 編集：あい、介護ネットワークーズ
川崎市中原区上丸子八幡町816 ☎044-433-4651
<HP> <http://www.bananaen.com/>